opusdei.org

友だちに囲まれた聖 人

ホセマリア・エスクリバー列 聖請願人 フラビオ・カプッチ 神父

2004/01/21

聖人たちは教会という大木に豊かに 実る果実であり、その一生は、キリストの神秘体から流れ出る愛徳に包まれ、信仰に支えられています。そして、人々と一つになるように促され、すべての人のために自分の人生を使い果たしたのです。聖人の伝記 に目を通すなら、人のために生きる という姿勢をすぐに見出すでしょ う。

ホセマリア・エスクリバー神父は、 20世紀の初めにスペインのバルバス トロに生まれ、キリスト信者の家庭 で育ちました。両親の模範を見て、 自然にその徳を身に付けていきまし た。平凡などこにでもあるキリスト 信者の家庭の素朴な生活、つまり誇 りを持って働き、人々に奉仕し、喜 び、悲しみ、祈りを共にし、愛情に 包まれて育ちました。愛徳姉妹会の シスターの保育を経て、スコラピオ ス会の経営する小学校で初等教育を 受け、そこでもカトリックの教えの 指導を受け、信仰を強めていきまし た。両親の手ほどきと町の教会の神 父様の導きで早い時期から信仰生活 を始め、秘跡にあずかりました。後 になって、最初の赦しの秘跡を聞い てくれた修道司祭を愛情込めて思い 出すのが常でした。時の経過と共に

兄弟が増え、両親の喜びと幸福も大 きくなっていきました。

1915年に新天地を求めてログロー ニョという町へ引っ越しました。家 族にとって残念な出来事があり、数 年間におよぶ苦しい生活を経てのこ とでした。1917年の冬、そこで洗足 カルメル会修道士が降り積もった雪 の上を素足で歩いた足跡を見て、若 かったホセマリアの心は騒ぎまし た。「僕は、神様のために何をすれ ばいいのだろうか? | この自問は、 神にすべてを捧げる道の始まりでし た。それは、けっして独りぼっちの 道ではなく、いつも、神の恵みと両 親と兄弟の支え、そしてたくさんの 人々の模範に励まされていました。 神が何かをお望みであると感じまし たが、それが何であるかは分かりま せんでした。そこで、神学校へ行く ことにし、そこで経験豊かな司祭の 助けを受け、神の呼びかけについて の考察を深め、神の計画を果たした

いという望みを固めていきました。 そして、ご聖体におられるイエス・ キリストを中心に生きるようになり ました。つまり、キリストを軸にし て考え、行動し、心にあふれる愛は 教会との交わりに支えられるように なりました。

1925年、司祭叙階を受けてから、自 分を惜しまず、あらゆる階層の人々 の司牧に専念しました。特に貧しい 人と病人の世話に力を注ぎ、当時ま だ知らされていなかった神のお望み を果たすことができるようにと、そ の人たちに物乞いのように祈りを頼 んでいました。それが唯一の頼れる 力だったのです。1927年からマド リッドに住むようになりました。そ こでシスターや善意の人々が運営す る病院で病人の霊的な世話を引き受 けました。当時のスペインでは、教 会が迫害される難しい時代で、ホセ マリア神父は健康を害するまで働 き、時には命を賭けて世話に当たり

ました。司祭として駆け出しのあの頃、イエズス会の司祭に霊的指導を受け、女子修道院の指導司祭として数年間を過ごしました。

1928年、たくさんの祈りの末にオプ ス・デイが生まれました。ホセマリ ア神父は、貧しい人や病人の世話を する一方で、すぐさま学生、教授、 労働者、そして司祭たちを相手に働 き始め、キリストのすぐ近くから従 うように勧め、いつもの什事を聖化 するように教えとました。あの時か ら、疲れを知らずにオプス・デイの 仕事を推し進めました。そして、あ らゆる階層のさまざまな分野で働く 無数の人々に、キリストに従って牛 きるという召し出しへの力強い呼び かけを届けたのです。

1940年代、信徒と協力して繰り広げる使徒的活動で休む間もなく働き詰めであったのにもかかわらず、司教様方の要請に応えてスペイン各地で

数多くの司祭のための黙想会を引き 受け、何千人もの教区司祭を指導し ました。こうして数多くの司祭への 召し出しと修道者への召し出しを り起こしました。また、困難に出 会った人に対しては、その道に踏み 止まるように常に励ましたのです。

1975年に帰天して以来、「友人ホセ マリアトの列福・列聖を求める教区 司祭、修道者、司教、信徒の会会員 やその他大勢の手紙が列聖誓願人へ 届けられました。属人区オプス・デ イでは、これら創立者の友が表した 愛情が今も続いています。それどこ ろか、1975年以後、ありがたいこと にその教えと著作は広がり、創立者 の友の数は増え続けています。ひと つの例をあげれば、世界中の各国に ある500の男子・女子観想修道院 がオプス・デイの協力者になってい て、その途切れることのない祈りに よってオプス・デイの仕事を支えて います。

ホセマリア・エスクリバー神父の生 涯とその創立の歴史は、教会におけ る交わりによって特徴付けられてい ます。つまり、聖人の生涯の特徴 は、「教会の秘義の本質そのものを 受肉し、表現しています」(「新千 年期の初めに | 42番)。そして、 そこから頂いた愛徳に比例して御父 の「み心」を表します。教皇様はす べてのキリスト信者に対して、行い をもって「教会を交わりを生きる場 所、学ぶ場所にする | (「新千年期 の初めに」43番)ように呼びかけ られました。列聖式は、この交わり の霊性のモデルを力強く示してくれ ます。聖人たちを仰ぎ見るなら、 「神秘体の深い一致における信仰の 兄弟姉妹は、『わたしの分身』であ り、わたしたちに贈られた賜物であ る | (「新千年期の初めに | 43 番)ことがよく分かります。これを よく自覚するなら、教会と神に対し ての感謝の心が湧き起こります。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/you-dachiniwei-maretasheng-ren/(2025/11/21)